

## こたまコラム (矢作新報社への寄稿内容)

少し前の話となりますが、4月21日に名古屋市長選挙の投開票が行われ、市民税減税の継続等を掲げた河村たかし氏が、出直し選挙も含め3回目の当選を果たしました。

名古屋市民の判断でありますので、選挙結果に対する批評は差し控えさせていただきますが、今回の選挙結果については、名古屋市の特性も深く関係があるように思えますので、愛知県内各地域の特性について、議員活動を通じての私の所感を述べさせていただきたいと思えます。

先ず、名古屋市を除く尾張地域については、名古屋市周辺都市として開発が急激に進む一方、その事が雨水流出量の増加等を招き、低地の浸水被害要因となっており、各市町村からの要望も、河川整備に重きを置く傾向があるように思えます。

また、東三河地域については、社会資本整備など「県政は西高東低」との不満が以前から少なくなく、昨年4月に発足した「東三河県庁」を核として、地域の活性化に期待が寄せられています。

さらに、我が豊田市を含む西三河地域は、言わずと知れた自動車産業を中心とした産業集積地であるものの、交通事情は必ずしも良好ではなく、道路網の整備等が引き続き強く求められています。

一方で名古屋市については、バス・地下鉄網が縦横無尽に敷かれ、待機児童問題を除けば、その他行政サービスもある一定レベル以上を確保しており、行政に対する期待は、他地域に比べれば少ないように感じます。

その結果、候補者本人の知名度も相まって、減税政策を掲げた河村氏の圧勝に繋がったのではないかと思いますので、今回の名古屋市長選挙結果のみに囚われず、引き続き広く県民意見の収集に努めながら、今後の議員活動に臨んで参ります。



愛知県議会議員

こたま よしかず

樹神 義和 